

網走地方気象台によると 2 月 22 日にようやく網走における流水接岸初日が観測されたそうです。これは平年より 20 日、昨年より 34 日遅く、昭和 34 (1959) 年の統計開始以来、流水接岸初日を観測した中で最も遅い初日とのことです。温暖化の影響を想像してしまいます。

▼オホーツク総合振興局では平成 27 年の漁業生産見込み（速報値）をとりまとめています。それによりますと、漁獲数量は約 209 千トンで前年（269 千トン）より減少、漁獲金額は約 627 億円で前年（623 億円）とほぼ同程度になる見込みとのことです。数量は台風や爆弾低気圧の影響によりホタテガイの減産や秋さけ定置網の漁具被害等により減少したほか、スルメイカの来遊が低調だったため、近年では最低になるとの分析です。金額はホタテガイや秋サケなどの単価が昨年より好調だったため、数量の減少分を単価でカバーして、3 年連続で 600 億円を上回る見込み。ホタテガイ（前年比 66.6%）、サケ（同 96.3%）、スルメイカ（同 31.3%）、ホッケ（同 37.1%）の水揚げが減少した一方、カラフトマス（同 136.6%）、スケトウダラ（同 137.2%）の水揚げが伸びたようです。さけます内水面水試では平成 27 年の管内のサケ来遊量を前年より多くなると予想をしていましたが、少し伸び悩んだようです。また、網走水試ではホッケの資源調査を実施していますが、全道的な漁獲制限にもかかわらず増える兆候は見られていないようです。水産研究本部では毎年の資源調査に基づき「北海道周辺海域における主要魚種の資源評価」を行っております。結果は水産研究本部マリンネット北海道のホームページ（HP）に掲載しております。ちなみに平成 27 年の北海道全体の漁業生産は、数量で 100 万トン（前年 120 万トン）、金額で 3,112 億円（同 3,017 億円）となる見込みで、数量では減少するものの金額では引き続き 3,000 億円を超えるようです。数量の減少は主要魚種であるホタテガイ、スケトウダラ、サンマ、イカ、ホッケなどの水揚げが減少したことによります。

▼ミニレター No.45 で気象庁が HP に公開している水温は、数値データとしては入手できないと書きましたが、このほど札幌管区気象台の HP「北海道沿岸域の海面水温情報」により日別の水温が 1982 年分から取得できるようになりました。これは北海道沿岸を 29 の海域に分け、衛星による観測データを再解析したものです。数値データが取得できるようになり、漁獲量などとの関係を容易に比較することができるようになりました。また、2 月には気象庁の HP「海洋の健康診断表」において、世界の海面水温と表層水温及び日本沿岸の海面水位に関する年に一度の診断結果が公開されています。海面水温（全球平均）の長期変化傾向では、2015 年の年平均海面水温の平年差は +0.30℃ で、統計を開始した 1891 年以降最も高く、100 年あたり 0.52℃ の上昇となっています。オホーツク海の海水の長期（向こう 1 か月）見通しについても発表されています。（網走水試 上田）